

南米のシワバネクワガタ属について

馬場 勝

Notes on the genus *Sphaenognathus* (Coleoptera, Lucanidae) from South America
by Masaru Baba*

本属を紹介するに至った経緯と問題点

本誌編集長の藤田氏から一昨年の *Leptinopterus* (ホンクワガタ属) に引き続き、本誌のクワガタ特集号で筆者所蔵の *Sphaenognathus* (シワバネクワガタ属) に属するクワガタムシの紹介をしてはどうかとお誘いを受けた。理由は、本属が中南米を代表する大属であるにもかかわらず、日本国内では一部の種以外紹介されたことがないため、ということであった。

筆者は本属既知種の一部の標本しか所有していないものの、多少の役には立つかと愚考し、引き受けることとした。しかしながら、手持ちの標本の少なさに加え、原記載をはじめとする文献の収集も充分でないことから、本属全体の概要すらつかめていない中で、本稿を草することとなった。

このような事情から、今回紹介した中には同定間違いなど、様々な問題が含まれている可能性がきわめて高いことをご承知おきいただきたい。

本報での同定における特記事項

先に述べた事情に加え、筆者の勉強不足から、今回紹介した種の同定は、著名な研究家諸氏の同定ラベルの付された標本については、基本的にそれに従った。同定者については、標本データと共に記述した。

本報記述における特記事項

- ①種解説は手元の標本を基準としている。
- ②手持ちの標本がない種は原記載を参考にして記述している。
- ③体長 (Length) については、原記載の記述と手許の標本を基準に記述した。
- ④種解説の光沢の有無・色彩などの特徴については、特記がない限り背面から見た範囲で記述した。

Sphaenognathus Buquet, 1838

Type species: *Sphaenognathus prionoides* Buquet, 1838

*) Author's address: 2-10-15-416, Shiomi, Koto-ku, Tokyo, 135-0052 Japan.

- Orthognathus* Dejean, 1837, *Cat. ed.* 3: 193 (nom. praecoc.).
Sphaenognathus Buquet, 1838, *Revue zool.*: 104.
Sphaenognathus [sic]: Buquet, 1839, *Mag. Zool.* 9: 1.
Sphenognathus [sic]: Burmeister, 1847, *Handbuch der Ent.* 5: 334.
Chiasognathinus Didier et Séguy, 1953, *Encycl. Ent.* (A) 27: 24.
Chiasognathinus sbg. *Sphaenognathinus*: Chalumeau et Brochier, 1995, *Bull. Sciences Nat* (83): 20.
Chiasognathinus sbg. *Chiasornithodus*: Chalumeau et Brochier, 1995, *Bull. Sciences Nat* (83): 22.

本属の概要

本属は南米北部のアンデス山脈とそれに連なる山脈群を中心に分布し、現在までに、この地域からは50を超える種・亜種・変種の記載がなされている。また、その南側には近縁な *Chiasognathus* 属が分布する。

本属は外部の形態からいくつかの種群に分類することが可能であるが、種群内では互いにきわめて近似している場合が多い。そして、それが同種の連続的な変異 (インクライン) なのか、同種ながら地域に固定された形質持つ変異 (亜種) なのか、似て非なる形質を持つもの (別種) なのかは十分に解明されておらず、記載された種・亜種・変種の取り扱いについては、研究者によってその見解が相違し、位置付けが固定しないのが現状である。この原因の一つとして、本属の多くは比較的高標高地 (2000~3000m) で得られている関係上、道路などの問題もあって採集場所が限定され、点と点になっており、線で繋げることが困難な状況にあることがあげられる。

しかしながら、現状の調査状況は逆に考えれば、今後、多くの新種の発見につながる可能性もある。

種解説

Sphaenognathus alticollis Möllenkamp, 1912 (Figs. 1-2)

Sphenognathus alticollis Möllenkamp, 1912, *Ent. Z.* 5: 302.

Sphaenognathus matheusi Bartolozzi, Bomans et Onore, 1992, *Frustula ent.* 14: 143-246.

模式産地：Süd Peru.

体長：♂36.8mm～40.0mm（原記載），♀40.0mm.

♂♀共に暗黒褐色で，光沢はやや鈍い。

♂は頭部・前胸に黄灰白色の長毛が周辺部にやや疎らに散布される。後胸腹板は同色の長毛をやや密に生ずる。頭部前角は水平方向に強く突出し，その先端は尖る。大あごは基部から約1/3が幅広で，その前方は急激に細くなる。その外縁は基部近くで強く突出し，先端部近くまで直線的で，先端部はやや強く湾曲する。また，その内縁は先端後方に比較的目立つ1小内歯を有し，その後方から基部前方までは鋸歯状となる。

♀の背面はほぼ無毛で，腹面も黄灰白色の短毛がきわめて疎らに散布される程度で，毛は目立たない。頭部前角はほぼ水平方向に突出し，その先端は尖る。大あごの外縁は中央後方で大きく膨らみ，先端は丸まる。

標本データ：Fig. 1: ♂, Sucumbios, alt. 3100m, Ecuador, Jun. 1999; Fig. 2: ♀, Sucumbios, alt. 3100m, Ecuador, Jun. 1999.

Sphaenognathus armatus Parry, 1872 (Figs. 3-4)

Sphenognathus armatus Parry, 1872, *Trans. ent. Soc. Lond.* 1872: 73.

模式産地：Colombia.

体長：♂41.6mm～42.3mm（原記載），♀19.0mm（原記載：大あごを含まない）～41.2mm.

♂♀共に暗褐色で，光沢は鈍い。

♂は頭部・前胸に灰白色の短毛が周辺部にやや疎らに散布される。後胸腹板は同色の長毛をやや密に生ずる。頭部前角は水平方向に強く突出し，その先端は尖る。大あごは基部が幅広で，前方に向かうにしたがって次第に細くなる。その外縁は基部近くで緩く突出し，先端部近くまで緩やかに湾曲し，先端部はやや強く湾曲する。また，その内縁も緩やかに湾曲し，先端から基部前方までは鋸歯状となる。

♀の背面は灰白色の短毛が周辺部に疎らに散布される程度で，腹面も灰白色の短毛がやや疎らに散布される。頭部前角は水平よりやや下向きに突出し，その先端は尖る。大あごの外縁は基部前方で強く突出し，先端は丸まる。大あごの内側の上面には基部から中央にかけて褐色の短毛で密に被われる。

標本データ：Fig. 3: ♂, Callima Valley, Colombia, Aug. 1986; Fig. 4: ♀, Callima Valley, Colombia, Aug. 1986.

Sphaenognathus bellicosus Boileau, 1904

Sphenognathus bellicosus Boileau, 1904, *Le Naturaliste* 26: 277.

Sphaenognathus rehni Moxley, 1962, *Entmolog. News* 73: 199.

模式産地：Colombia, Santa Marta.

♂♀共に褐色で頭部は緑色味を帯びる個体もある。

♂は*S. nobilis*に近似するが，光沢はより弱く，大あごの内縁は前方1/3に顕著な2小歯を有する。

♀の背面は，黄灰白色の短毛が周辺部に疎らに散布される程度。頭部前角は水平よりやや下向きにやや突出し，その先端は角張る。大あごの外縁は中央後方で強く突出し，先端は角張る。

Sphaenognathus bordoni Brochier et Chalumeau, 2000

Sphaenognathus bordoni Brochier et Chalumeau, 2000

模式産地：Colombia, Santader del Norte Cerro Oroque.

体長：♂47.3mm（原記載）.

*S. nobilis*や*S. bellicosus*に近似する。

Sphaenognathus canaliculatus Parry, 1874 (Fig. 29)

Sphaenognathus canaliculatus Parry, 1874, *Trans. ent. Soc. Lond.* 1874: 368.

模式産地：Venezuela.

体長：♂35.1mm.

Krajcik (2001) は本種を*S. feisthamelii*のsynonymとして取り扱っているが，図示した標本の同定(Dr. Knirsch det.)が正しいとすれば，当該種とは明瞭に区別し得るので，本稿では独立種として取り扱う。

♂は*S. prionoides*に近似するが，腹面の長毛の密度はより低く，各脛節の湾曲はやや強い。大あごはより直線的で，外縁の基部近くは緩く外方に張り出す。

標本データ：Fig. 29: ♂, Ex. coll. Dr. Ed. Knirsch, Ex. coll. Hans Schein, Ex. coll. Haberäcker, *S. canaliculatus* det. Dr. Knirsch.

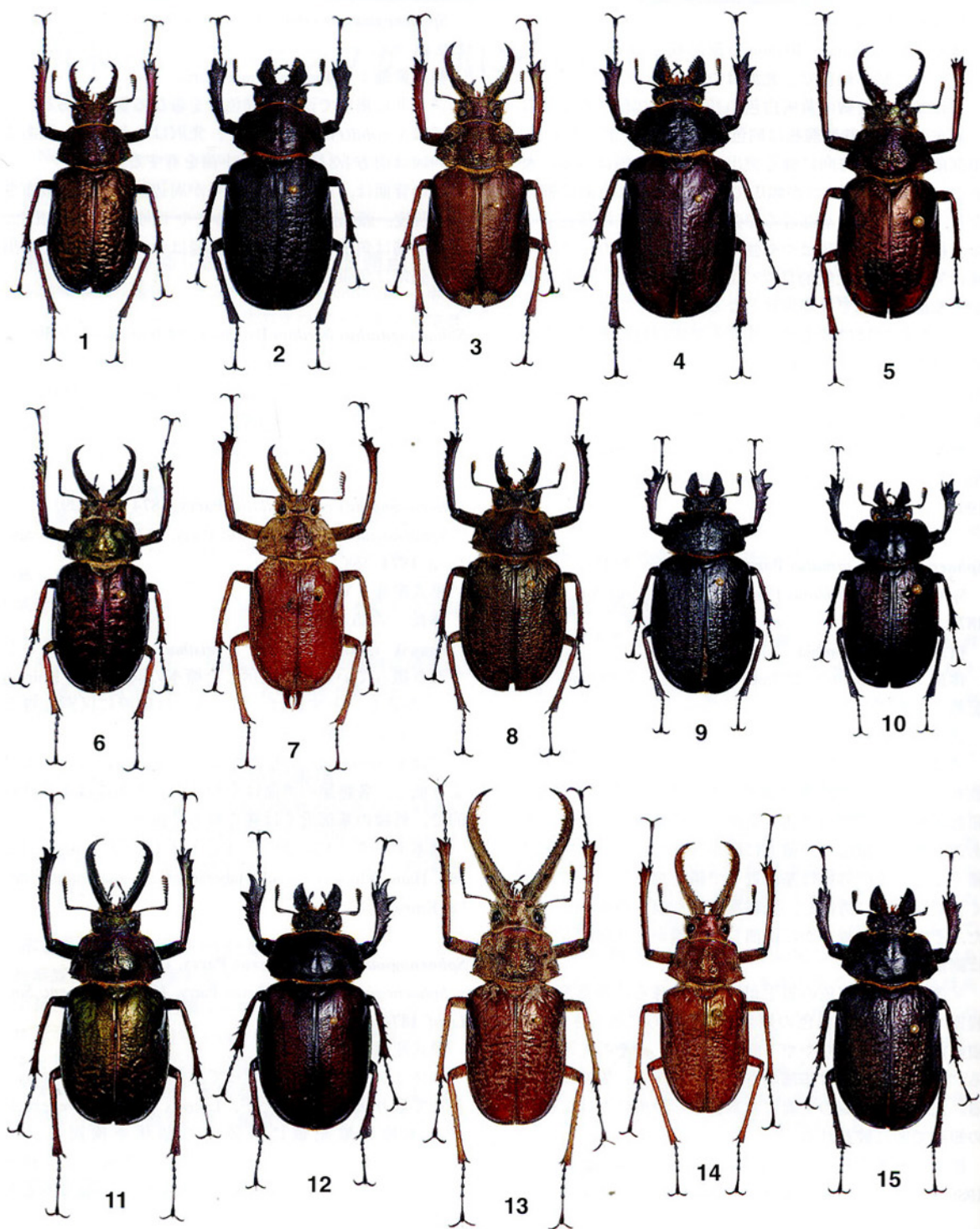
Sphaenognathus circumflexus Parry, 1874

Sphaenognathus circumflexus Parry, 1874, *Trans. ent. Soc. Lond.* 1874: 367.

模式産地：Bolivia.

本種はかつて長期にわたって*S. feisthamelii*のsynonymとして取り扱われてきたが，Lacroix (1988) はVenezuela産の本種の原因記載に合致する個体を検討し，*S. feisthamelii*よりもむしろ*S. prionoides*に近縁な独立種として位置づけた。また，本種の分布をVenezuelaであると結論している。

♂は*S. prionoides*に近似するが，大あごは全体に緩やかに湾曲し，内縁は鋸歯状で，外縁の基部近くは外方に張り出す。



Figs. 1-15. *Sphaenognathus* spp. 1-2. *S. alticollis*. 3-4. *S. armatus*. 5. *S. signatus*. 6. *S. furumii*. 7. *S. pubescens*. 8-9. *S. kolbei*. 10. *S. higginsii*. 11-12. *S. monguilloni*. 13-15. *S. garleppi*.



Figs. 16-24. *Sphaenognathus* spp. 16-22. *S. feisthamelii*. 23-24. *S. giganteus*.

***Sphaenognathus curvipes* Benesh, 1948**

Sphaenognathus curvipes Benesh, 1948, *Ann. Carnegie Mus.* 31: 45.

模式産地：Bolivia, Incachaca, alt. 2500m.

きわめて特異な種で，♂♀共に各脛節は長くきわめて強く湾曲する。

♂の大あごの外縁は先端後方までやや直線的で，基部前方はやや膨らむ。

***Sphaenognathus feisthamelii* (Guérin-Méneville, 1838)**

(Figs. 16-22)

Chysognathus feisthamelii Guérin-Méneville, 1838, *Revue zool.* 1: 287.

Sphenognathus villiersi Lacroix, 1969, *Annl. Soc. ent. Fr.* 5: 589-592.

Sphaenognathus subtilis Lacroix, 1987, *Bull. Soc. Sci. Nat.* (56): 11-13.

Sphenognathus boileau Lacroix, 1969, *Annl. Soc. ent. Fr.* 5: 587.

模式産地：Colombie.

体長：♂ 46.9~74.0mm, ♀ 42.5~50.8mm.

Syntypesは小型の♂で，そのうちの1頭は47mmである。小型個体で記載されたことと，広域分布であることから色彩も含め多少の変異もあること，さらに本種と近縁な *S. giganteus*, *S. garleppi* が近似していることから，これら3種のsynonymが多数記載される要因となったと推定される。

♂の大あごは基部近くに上面に1対の歯を有する。大型個体では斜め上方内向きに大きく発達するが，背面から見て大あごの内縁を大きく超えることはない。中~小型個体では，次第に発達が悪くなる。上翅の前角は突出し，先端は尖る。

♀の大あご外縁は中央やや後方で強く膨らみ，先端は角張って「く」の字状となる。頭部前角はほぼ水平方向に強く突出し，先端は尖る。前胸側縁前方1/4は，きわめて緩やかに斜め後方に切れる。

Colombieから記載された *S. villiersi* と Equateur から記載された *S. subtilis* は共に暗緑色で，図示した Fig. 21 は後者の原記載によく一致する。

なお，*S. subtilis* の原記載の holotype 写真は *S. rotundatus* の♀であり，*S. rotundatus* の holotype 写真が本種の holotype という手違いが生じている。

標本データ：Fig. 16: ♂, Villa Rica Chanchamayo, alt. 2200m, Peru, Mar. 1991; Fig. 17: ♂, Oxapampa Huanuco, Peru, 1984, H. Lehmann leg.; Fig. 18: ♂, Oxapampa Huanuco, Peru, 3. Dec. 1989, S. Lehmann leg.; Fig. 19: ♂,

Calabaza, Peru, Dec. 1997; Fig. 20: ♀, Oxapampa, Chanchamayo, Peru, 15. Sep. 1986, S. Lehmann leg.; Fig. 21: ♂, Roja, alt. 2500m, Ecuador, Oct. 1999; Fig. 22: ♀, Roja, alt. 2500m, Ecuador, Oct. 1999.

***Sphaenognathus feisthamelii* f. *boileau* (Lacroix, 1969)**

♂の大型個体で，大あご基部近くの上面に位置する1対の歯が，斜め上方内向きに強く発達し，背面から見て大あごの内縁を大きく超えて内歯状となる個体。

***Sphaenognathus furumii* Lacroix, 1990 (Fig. 6)**

Sphaenognathus furumii Lacroix, 1990, *Bull. Soc. Sci. Nat.* (65): 11-12.

模式産地：Bolivie, Zone des Yungas.

体長：♂ 35.0mm (原記載) ~ 38.9mm, ♀ 31.4mm (原記載)。

図示した標本は paratype 標本で原記載の特徴に一致する個体であるが，水沼 (1994) が指摘しているように，原記載に使用されている本種の holotype 標本の写真は明らかに別種である *S. alticollis* であり，記載上の問題が存在する種である。

♂♀共に *S. alticollis* に近似するが，前胸背板中央前方に1対の大きな窪みを有する。♂の大あごは *S. alticollis* と比較して外縁の基部近く突出は弱く，全体に緩やかに湾曲する。

標本データ：Fig. 6: ♂, paratype, Yungas, Bolivia, Dec. 1984.

***Sphaenognathus garleppi* Boileau, 1899 (Figs. 13-15)**

Sphenognathus garleppi Boileau, 1899, *Bull. Soc. ent. Fr.* 1899: 196.

Sphenognathus manifestus Jakowleff, 1901, *Rev. Rus. d'Ent.* 1: 176.

Sphenognathus inca Kriesche, 1922, *Stett. ent. Ztg.* 83: 116.

Sphaenognathus cartereti Lacroix, 1987, *Bull. Soc. Sci. Nat.* (56): 11-12.

模式産地：Bolivia.

体長：♂ 42.5~52.3mm, ♀ 38.0mm.

♂は *S. feisthamelii* の中型~小型個体に近似するが，体型はより細長で，同サイズの個体と比較した場合，頭部の幅は明らかに狭く，大あごの発達は良い。大型個体でも大あごの基部近くの上面に位置する歯の発達は悪い。上翅の前角は突出するが，*S. feisthamelii* よりも明らかに弱い。

♀の頭部前角は突出せず，やや丸まる。大あご外縁は

基部近くで外側に大きく張り出し、先端は角張る。

S. manifestus と *S. cartereti* を Krajcik (2001) は *S. giganteus* の synonym として取り扱っているが、前者は原記載で Jakowleff 自身が本種と疑っている記述があることに加え、その写真からも本種の大型個体 (59mm) と考えられ、後者も原記載とその写真から本種の大型個体 (69mm) と考えられることから、共に本種の synonym と見なすのが妥当である。

また、*S. inca* も Krajcik (2001) は疑問をはさみながらも *S. giganteus* の synonym として扱っているが、De Lisle (1975) は本種の synonym であると結論づけているので、それに従った。

標本データ：Fig. 13: ♂, Tanampaya, Bolivien, *S. garleppi* Boileau, Weinreich det., 1961; Fig. 14: ♂, Tanampaya, Bolivien, Ex. coll. Haberäcker, *S. garleppi* Boileau, Weinreich det., 1961; Fig. 15: ♀, Sehuenas Yungas de Totova, alt. 2100m, Bolibia, 10. Nov. 1958, Zischka leg.

Sphaenognathus gaujoni (Oberthür, 1885) (Figs. 45-47)

Chiasognathus gaujoni Oberthür, 1885, *Bull. Soc. ent. Fr.* 1885: 118.

模式産地：Equateur, Roja.

体長：♂ 34.2～35.5mm, ♀ 30.5mm.

本属の中では *S. peruvianus*, *S. leoni* と共に特異な種で、*S. peruvianus* と共に *Chiasognathinus* 属として独立属として扱われたこともある。*S. peruvianus* とは近似しているが、標本のデータを見る限り同所的に分布している (厳密な標高差などによる棲み分けは不明) ことから明らかに別種である。また、*S. leoni* はきわめて近似しており、同一種の可能性がある。

♂♀共に上翅は光沢のない濃緑色で、濃緑色味を帯びた黒褐色の個体も存在する。頭部・前胸背板と後胸腹板は黄褐色の長毛で密に被われるが、背面の長毛が脱落した個体では金属味を帯びた濃緑色の地色が発現する。

♂は *S. peruvianus*, *S. leoni* と共に大あごが立板状となるので、これら以外の他種との区別は容易である。

♀の頭部前角は突出せず丸まる。大あごの外縁は基部前方で「く」の字方に強く突出し、先端は角張る。

♂♀共に *S. peruvianus* との区別点は、体色と長毛の色のほかに、本種は中脛節の湾曲が緩やかな点があげられる。*S. leoni* の体色は、本種の上翅の黒色味が強い個体で背面の長毛が脱落した状態にきわめて近似している。本種との主な区別点は、中脛節がほぼ直線ということである。

標本データ：Fig. 45: ♂, Loja, Equateur, Ahbe Gaujon, Ex. coll. Hans Schein, *S. gaujoni* det. Weinreich, 1961; Fig.

46: ♂, Loja, Ecuador, Mar. 1992, G. Onore leg., *S. gaujoni* Oberthür ♂ det. Bortolozzi, 1992; Fig. 47: ♀, Loja, Ecuador, 20. Feb. 1992, G. Onore leg., *S. gaujoni* Oberthür ♀ det. Bortolozzi, 1992.

Sphaenognathus giganteus Boileau, 1911 (Figs. 23-24)

Sphenognathus giganteus Boileau, 1911, *Trans. ent. Soc. Lond.* 1911: 428-431.

模式産地：Bolivia, Chulumani, 2000m.

体長：♂ 66.5mm (原記載) ~ 67.5mm, ♀ 43.0 ~ 48.2, 50mm (原記載)。

研究者によっては *S. feisthamelii* の synonym として取り扱っているが、図示した本種の♀と考えられる個体は、*S. feisthamelii* の♀と比較して、頭部前角の突出がきわめて弱いことや前胸側縁前方1/3がより側方に張り出すなど別種または別亜種をうかがわせる特徴が見受けられることから、本稿では Krajcik (2001; 2003) に従って別種として扱った。

♂はきわめて *S. feisthamelii* に近似しており、筆者も決定的な区別点を発見できないでいる。しかしながら、*S. feisthamelii* と比較して、本種の大あご内縁の小歯はより小さく、その先端部内縁の長毛は短く、体下面の長毛はやや短く、その密度も多少低い。

♀も基本的に *S. feisthamelii* に近似するが、大あごの外縁中央部の突出は *S. feisthamelii* と比較してやや弱く先端が丸まる、頭部前角は弱く突出し先端は角張る、前胸側縁前方1/4は *S. feisthamelii* と比較してより側方に張り出すなどの差異が認められる。

標本データ：Fig. 23: ♂, Incachaca, alt. 2100m, Yungas, Bolivia, 30. Oct. 1957, Zischka leg.; Fig. 24: ♀, Bolibia, Ex. coll. Müller.

Sphaenognathus hemiphanestus De Lisle, 1975

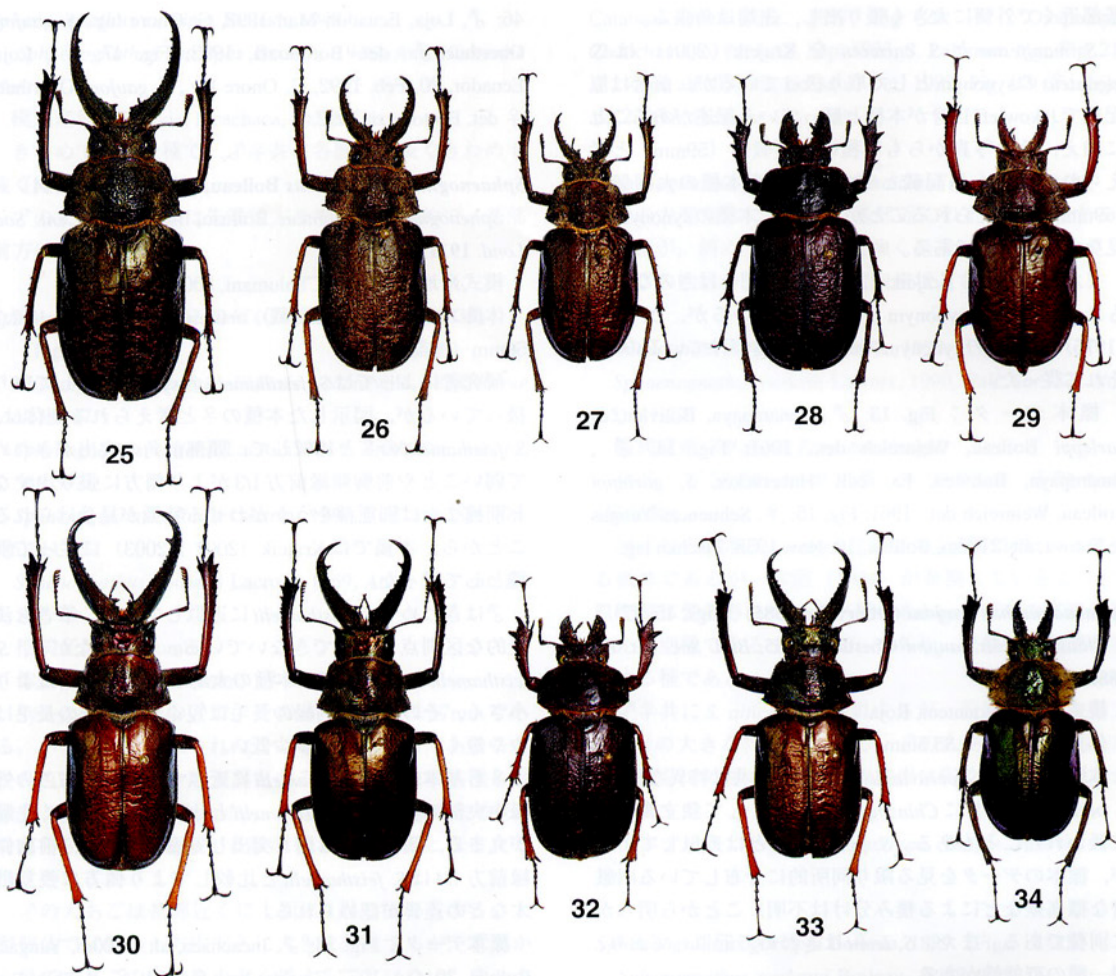
Sphenognathus hemiphanestus De Lisle, 1975, *Nouv. Revue Ent.* 5: 264-265.

模式産地：Colombie, Paso del Aunindin, 3500m.

体長：♂ 46.5mm (原記載)。

S. signatus に近似するが、*S. signatus* の後脛節がほぼ直線なのに対し、本種のそれは湾曲する。大あごは基部から先端部に向かうにしたがって急激に細くなる点は *S. signatus* と似るが、全体に緩やかに湾曲する点が異なる。

Krajcik (2001) は本種を *S. signatus* の synonym として扱っているが、後脛節の形態の違いは独立種としての要件を充分備えるもので、本稿では本種を独立種として扱った。



Figs. 25-34. *Sphaenognathus* spp. 25-28. *S. spinifer*. 29. *S. canaliculatus*. 30-32. *S. nobilis nobilis*. 33. *S. nobilis colombiensis*. 34. *S. metallifer*.

Sphaenognathus higginsii (Parry, 1876) (Figs. 10)

Chiasognathus higginsii Parry, 1876, *Ent. mon. Mag.* **12**: 174.

模式産地：Bolivia.

体長：♂ 42.3mm (原記載), ♀ 25.4 (原記載) ~ 32.1mm

原記載でParryは*Chiasognathus*属で記載しているが、その中で♂の大あごの形状から本属との中間的な特徴を備えた種であると述べている。

♀は背面・腹面共に全体に光沢を帯び、黒褐色で、後胸腹板は周辺部の一部を除いて無毛。頭部前角は突出せず、丸まる。前胸背板の前角は、前方へ突出した弧を描く。

標本データ：Fig. 10: ♀, Ex. coll. V. Rosenberg, *S. higginsii* Parry, Weinreich det., 1961.

Sphaenognathus kolbei Kriesche, 1919 (Figs. 8-9)

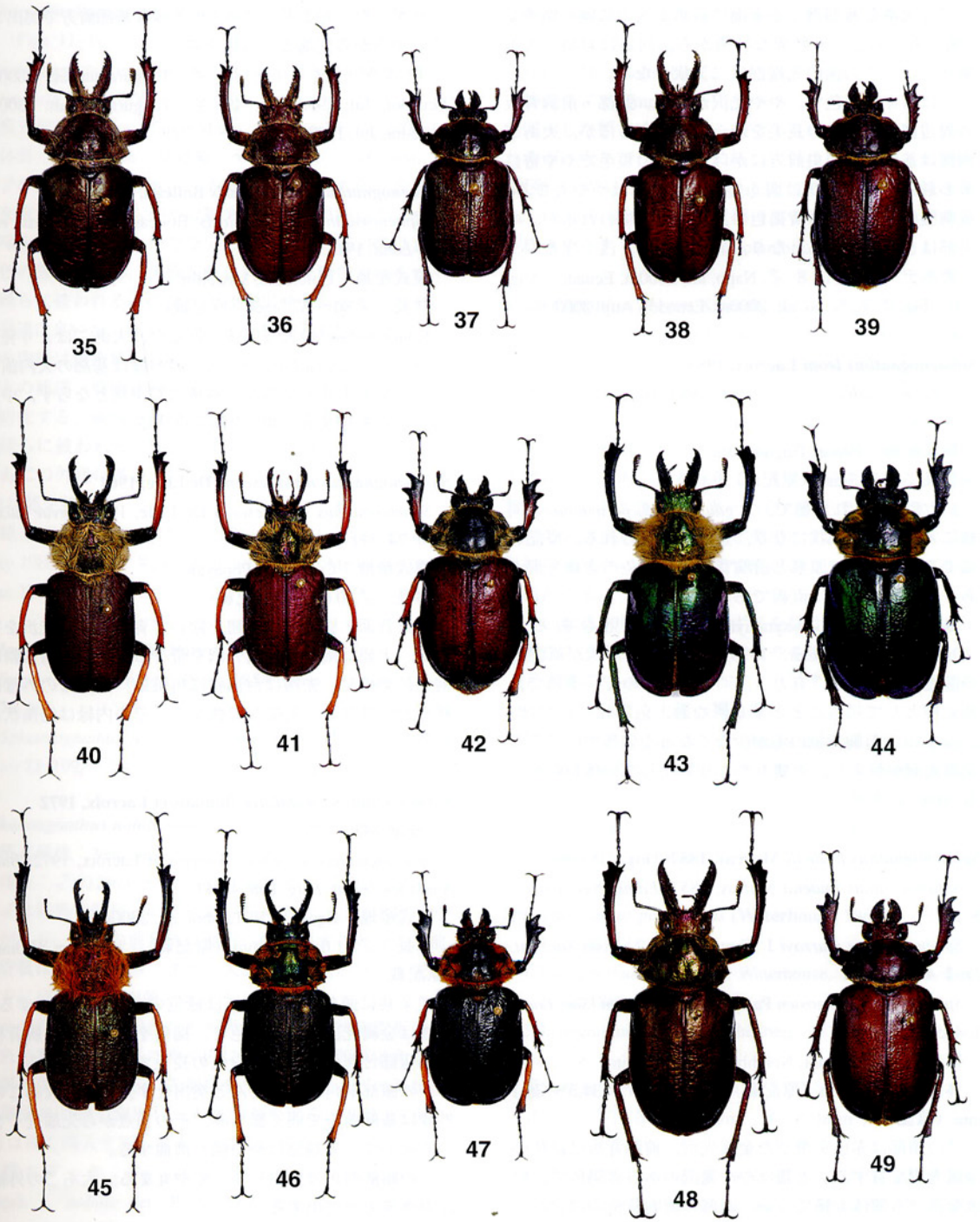
Sphenognathus kolbei Kriesche, 1919, *Arch. Naturgesch.* (A) **83**: 94.

Sphenognathus aequatorius Kriesche, 1940, *Ent. Bl. Z.* **36**: 39.

Sphaenognathus sanchezi Bartolozzi, Bomans et Onore, 1992, *Frustula ent.* **14**: 143-246.

模式産地：Ost-Ekuador.

体長：♂ 35mm (原記載) ~ 38.5mm, ♀ 34.5mm ~ 38mm (原記載)



Figs. 35–49. *Sphaenognathus* spp. 35–37. *S. prionoides*. 38–39. *S. taschenbergi*. 40–42. *S. peruvianus*. 43–44. *S. oberon*. 45–47. *S. gaujoni*. 48–49. *S. lindenii*.

♂は大あご基部近くの上面に斜め上内方に向く顕著な1歯を有するという特異な特徴から、同定は容易。大型個体では、この歯の先端部は二叉状となる。

♀は暗赤黒褐色で、やや光沢がある。頭部・前胸背板の周辺部に黄褐色の長毛を疎らに散布するほか、大あご内側は基部から中央前方にかけて同色の短毛でやや密に被われる。頭部前角は弱く突出し、先端はやや丸まる。後胸腹板の周辺部は黄褐色の長毛で密に被われるが、中央部はきわめて疎らとなり、光沢を有し、浅く窪む。

標本データ：Fig. 8: ♂, Napo, alt. 2000m, Ecuador, Aug. 2003; Fig. 9: ♀, Napo, alt. 2000m, Ecuador, Aug. 2003.

Sphaenognathus leoni Lacroix, 1983

Sphaenognathus leoni Lacroix, 1983, *Bull. Soc. Sci. Nat.* (40): 7-8.

模式産地：Pérou, Tingo-Maria.

体長：♂ 35.5mm (原記載).

1♂で記載された種で、*S. gaujoni* や *S. peruvianus* と同様に大あごは立板状になり、近縁と考えられる。原記載によると、黒色で頭部と前胸背板には緑色の金属光沢があり、中脛節はほぼ直線である。

S. gaujoni の junior synonym とする意見もあるが (Chalumeau et Brochier, 1995)、中脛節の形状が原記載の図通りであれば、有力な区別点となるので、本稿では独立種として扱うこととする。なお、色彩については、*S. gaujoni* の前胸背板の毛が少なくなった個体では緑色の金属光沢が目立ち、上翅もかなり黒化した個体が存在する (Fig. 46 参照)。

Sphaenognathus lindenii Murray, 1857 (Figs. 48-49)

Sphenognathus lindenii Murray, 1857, *Edinb. New phil. J.* 5: 221.

Sphenognathus murrayi J. Thomson, 1862, *Annl. Soc. ent. Fr.* 2: 409.

Sphenognathus rugosum Parry, 1863, *Trans. ent. Soc. Lond.* 1: 445.

模式産地：Equador, Neighbourhood of Quito.

体長：♂ 31.7mm (原記載) ~ 42.0mm, ♀ 34.5 ~ 38.1mm (原記載).

♂の頭部は赤色を帯びた金属光沢、前胸背板は緑色の金属光沢を有する。上翅はやや光沢のある赤褐色で、緑色を帯びる個体も稀でない。頭部・前胸背板の周辺部と腹面は黄褐色の長毛を有し、前者はやや密に、後者は密に被われる。頭部前角はほとんど突出せず角張る。大あごの外縁は直線的で、先端部は強く湾曲する。

♀の背面は赤褐色で、やや光沢がない。頭部前角は突

出せず、やや丸まる。大あごの外縁は基部前方で突出し、その頂点から先端までは弧を描く。

標本データ：Fig. 48: ♂, Tungurahua, alt. 2300m, Ecuador, Jul. 1998; Fig. 49: ♀, Tungurahua, alt. 2300m, Ecuador, Jul. 1998.

Sphaenognathus mandibularis Boileau, 1911

Sphenognathus mandibularis Boileau, 1911, *Trans. ent. Soc. Lond.* 1911: 426-428.

模式産地：Colombia, Medellin.

体長：♂ 50 ~ 57.5mm (原記載).

S. monguilloni の大型個体に似るが、大あごはより発達し長い。*S. monguilloni* の大あごの内縁は基部の大内歯より前方が鋸歯状となるが、本種は鋸歯状とならず、中央前方から先端後方の間に3歯を有する。

Sphaenognathus metallescens De Lisle, 1967

Sphenognathus metallescens De Lisle, 1967, *Revue suisse Zool.* 74: 521-522.

模式産地：Colombie, Popayan.

体長：♂ 30.0mm (原記載).

♂は背面・腹面共に上翅を除いて青色の金属光沢を有する。上翅は褐色で金属光沢を帯びる。頭部前角は斜め前方に突出し、先端は台形状に角張る。大あごの外縁は緩やかに湾曲し、先端部で強まる。その内縁は鋸歯状となる。

Sphaenognathus metallifer Bomans et Lacroix, 1972

(Fig. 34)

Sphenognathus metallifer Bomans et Lacroix, 1972, *Bull. Annl. Soc. r. ent. Belg.* 108: 42-47.

模式産地：Equador, El Tambor, alt. 2800m.

体長：♂ 31.0 ~ 33.0mm (原記載), ♀ 30.0 ~ 31.0mm (原記載).

♂♀共に頭部・前胸背板は緑色の金属光沢を有する。上翅は金属光沢のある緑色で、褐色を帯びる。前胸背板の周辺部と腹面は、黄灰白色の長毛で密に被われる。

♂の頭部前角は、ほとんど突出せず角張る。大あごの外縁は基部前方で弱く膨らみ、その頂点から先端近くまで直線的で、先端部はやや強く湾曲する。

♀の頭部前角は突出せず、やや丸まる。大あごの外縁は中央後方で突出する。

♂♀共に *S. oberon* にきわめて近似するが、体型は細長で、上翅の褐色味が強い。

標本データ：Fig. 34: ♂, paratype, El Tambo, alt. 2800m, Ecuador, 5. Mar. 1965, coll. H. Bomans, coll. J. P. Lacroix.

***Sphaenognathus monguilloni* Lacroix, 1972**

(Figs. 11-12)

Sphenognathus monguilloni Lacroix, 1972, *Bull. Annl. Soc. r. ent. Belg.* **108**: 47-50.

模式産地：Pérou, Tingo-Maria, Mt. Carpish, alt. 2800m.

体長：♂ 30.0mm (原記載) ~ 45.3mm, ♀ 38.7mm.

♂の頭部・前胸背板は、赤褐色味を帯びた弱い金属光沢を有する。上翅もやや金属光沢のある黒緑色で、赤褐色味を帯びる個体も稀でない。前胸背板の周辺部は黄灰白色の短毛を有し、後胸腹板は同色の比較的短い毛でやや疎らに被われる。頭部前角は突出せず角張る。大あごの発達が良いが、細く直線的で、先端部は強く湾曲する。その内縁は鋸歯状となる。

♀の頭部・前胸背板は黒褐色、上翅は赤褐色で周辺部は暗化する。後胸腹板は、黄灰白色の比較的短い毛でやや疎らに被われる。頭部前角は突出せず、やや丸まる。大あごの外縁は基部1/3が突出し、先端は角張る。前方2/3は弧を描く。

標本データ：Fig. 11: ♂, Uchiza Huall Lagas, Peru, 4. May 1985; Fig. 12: ♀, Carpish, alt. 2600m, Muanuco, Peru, Mar. 1986.

Sphaenognathus nobilis* Parry, 1874Sphaenognathus nobilis* Parry, 1874, *Trans. ent. Soc. Lond.* **1874**: 366.*Sphaenognathus nobilis colombiensis* Moxley, 1962, *Ent. News* **73**: 199.***Sphaenognathus nobilis nobilis* Parry, 1874** (Figs. 30-32)

模式産地：Venezuela.

体長：♂ 40.8mm ~ 50.8mm (原記載), ♀ 32.0mm.

♂は特異で他種との区別は容易である。♂は全体に光沢があり、前胸の前角部は側方へ張り出すことなく、前胸背板は台形となる。また、大あごは発達が良い、先端後方に目立つ1小内歯を有する。

♀の背面は赤黒褐色でやや光沢がある。後胸腹板は黄褐色の比較的短い毛でやや密に被われる。頭部前角はやや斜め前方に突出し、先端はやや尖る。大あごの外縁は基部前方で強く突出し、先端はやや尖る。基部1/3から2/3は浅く湾入する。前方1/3は弧を描く。

標本データ：Fig. 30: ♂, Merida, Venezuela, coll. P. Nagel, *S. nobilis* det. P. Nagel, 1928, *S. nobilis* Parry, Weinreich det., 1961; Fig. 31: ♂, Ed. Merida Np Sierra Nevada, LaMacuy, alt. 2300m, 13. Apr. 1995, Hornburg / Krause leg.; Fig. 32: ♀, Brazil, *S. nobilis* Parry, Weinreich det., 1961.

***Sphaenognathus nobilis colombiensis* Moxley, 1962**

(Fig. 33)

模式産地：Colombia.

体長：♂ 41.7mm

図示した標本はColombia産で本亜種に相当すると思われるが、大あごが明らかに細い以外は原名亜種との明瞭な区別点が見出せない。Krajcik (2001) は本亜種を *S. bellicosus* の synonym と位置付けている。

標本データ：Fig. 33: ♂, Colombia.

***Sphaenognathus oberon* Kriesche, 1922** (Figs. 43-44)*Sphenognathus oberon* Kriesche, 1922, *Stett. ent. Ztg.* **83**: 116.

模式産地：Equador.

体長：♂ 37.8mm ~ 39.0mm (原記載), ♀ 35.8mm.

♂♀共に頭部・前胸背板は緑色の金属光沢を有する。上翅は金属光沢のある緑色で、やや褐色を帯びる。前胸背板の周辺部と腹面は、黄灰白色の長毛で密に被われる。

♂の頭部前角は、ほとんど突出せず角張る。大あごの外縁は基部から先端近くまで直線的で、先端部はやや強く湾曲する。

♀の頭部前角は、突出せず弧を描く。大あごの外縁は中央後方で突出し、その先端はやや尖る。

♂♀共に *S. oberon* にきわめて近似するが、体型は明らかに大型で幅広、上翅の褐色味は弱い。

標本データ：Fig. 43: ♂, neoparatype, Bolival Totoras, Ecuador, Mar. 1988, G. Onore leg., *S. oberon* Kriesche det. L. Bartolozzi & H. E. Bomans, 1988; Fig. 44: ♀, Bolival Totoras, Ecuador, Mar. 1992, G. Onore leg., *S. oberon* Kriesche det. L. Bartolozzi.

***Sphaenognathus peruvianus* (Waterhouse, 1869)**

(Figs. 40-42)

Chiasognathus peruvianus Waterhouse, 1869, *Trans. ent. Soc. Lond.* **1869**: 18.*Sphenognathus wallisi* Taschenberg, 1870, *Z. ges. naturw. Halle.*: 178.

模式産地：Peru.

体長：♂ 31.5 ~ 38.0mm, ♀ 28.0mm (原記載) ~ 31.6mm.

本属の中では *S. gaujoni*, *S. leoni* と共に特異な種で、*S. gaujoni* と共に *Chiasognathinus* 属として独立属として扱われたこともある。*S. gaujoni* とは近似しているが、標本のデータを見る限り同所的に分布している(厳密な標高差等による棲み分けは不明) ことから明らかに別種である。また、*S. leoni* は *S. gaujoni* にきわめて近似している。

♂♀共に体色は光沢のないくすんだ暗いピンク色で、前胸背板と後胸腹板は黄灰白色の長毛で密に覆われる。♂は *S. gaujoni*, *S. leoni* と共に大あごが立板状となるので、これら以外の他種との区別は容易である。

♀の頭部前角は、突出せず丸まる。大あごの外縁は基部前方で「く」の字方に強く突出し、先端は角張る。

♂♀共に *S. gaujoni*, *S. leoni* との区別点は、体色と長毛の色の他に本種は中脛節が強く湾曲するという点がある。

標本データ：Fig. 40: ♂, Loja, Ecuador, *S. peruvianus* Waterhouse det. Weinreich, 1961; Fig. 41: ♂, Loja, Ecuador, Abbe Gaujon, *S. peruvianus* Waterhouse det. Weinreich, 1961; Fig. 42: ♀, Loja, Ecuador, Mar. 1990, G. Onore leg., *S. peruvianus* Waterhouse det. Weinreich, 1961.

Sphaenognathus prionoides Buquet, 1838 (Figs. 35–37)

Sphaenognathus prionoides Buquet, 1838, *Revue zool.* 1: 104.

Orthognathus albofuscus Blanchard, 1847, *Voy. d'Orbigny. Ins.*: 193.

Sphaenognathus prionoides var. *bispinosus* Didier, 1928, *Etud. Col. Lucan.* 1: 11

Sphaenognathus prionoides var. *spinosus* Didier, 1928, *Etud. Col. Lucan.* 1: 11

Sphenognathus pristin De Lisle, 1970, *Revue suisse Zool.* 77: 91–93.

Sphenognathus dentifer Lacroix, 1972, *Bull. Anns Soc. r. ent. Belg.* 108: 33–37.

Sphaenognathus bidentatus Adam, 1986, *Folia ent. hung.* 47: 15–16.

模式産地：Colombie, La Nouvelle-Grenade.

体長：♂ 33.4～37.4mm, ♀ 28.6～33.5mm

本属の基準種である。♂♀共に体下面は灰白色の長毛で覆われ、特に後胸腹板で顕著。

♂の背面は全体に褐色でやや光沢があり、頭部の中央前方は赤味を帯びた金属光沢を有する。頭部・前胸背板の周辺部は灰白色の長毛でやや疎らに覆われる。頭部前角はやや強く斜め前方に突出し、先端はやや尖る。大あごの外縁は基部前方がきわめて弱く膨らみ、先端近くまできわめて緩やかに湾曲し、先端部はやや強く湾曲する。その内縁は鋸歯状となるが、大型個体ではそのもっとも前方の1歯がやや大きくなる。

♀の頭部・前胸背板は褐色～黒褐色、上翅は褐色で、全体にやや光沢がある。頭部・前胸背板の周辺部は、灰白色の短毛でやや疎らに覆われる。頭部前角はやや突出し、先端は角張る。大あごの外縁は中央後方で強く突出

し、その先端は尖る。

♂♀共にきわめて近似する種が多く、同定が困難な種である。本稿で synonym とした種も原記載の図を見る限り、別種を疑う必要のある種も含まれる。

S. albofuscus は♀で記載された種で、本種の synonym 扱いが一般的である。Krajcik (2001; 2003) は当該種を独立種として扱っている。

標本データ：Fig. 35: ♂, Muzo, Colombia, *S. prionoides* det. Weinreich, 1961; Fig. 36: ♂, Taragasuga, *S. prionoides* det. Weinreich, 1961; Fig. 37: ♀, Colombia, Ex. coll. Müller, *S. prionoides* det. Weinreich, 1961.

Sphaenognathus pubescens (Waterhouse, 1873) (Fig. 7)

Chiasognathus pubescens Waterhouse, 1873, *Ent. mon. Mag.* 10: 110.

模式産地：Venezuela.

体長：♂ 36.0mm (原記載)～38.4mm.

S. prionoides に似るが、♂は種名が示す通り、頭部・前胸と上翅の一部が黄灰白色の短毛で密に覆われ、腹面も腿節も含め同色の長毛で密に覆われる。体色は本属の中では比較的明るい褐色で、光沢は乏しい。各脛節は緩やかに湾曲し長く、前脛節は顕著に長い。前脛節外縁は鋸歯状の小棘を欠き、痕跡状の数歯となる。

標本データ：Fig. 7: ♂, Nicaragua, *S. pubescens* Waterhouse, M. O. de Lisle det., 1967.

Sphaenognathus rotundatus Lacroix, 1987

Sphaenognathus rotundatus Lacroix, 1987, *Bull. Soc. Sci. Nat.* (56): 12–13

模式産地：Venezuela, Cordillère de Merida.

体長：♂ 31.5mm (原記載), ♀ 28mm (原記載).

原記載の♂の holotype 写真は *S. subtilis* の♂で、♀は本種の♀と推定される個体が *S. subtilis* の holotype として図示されている。

♂♀共に *S. prionoides* にきわめて近似する。

♂の頭部前角は突出せず、その先端は角張る。大あごは発達が悪く、その外縁は基部前方で突出し、先端近くまではほぼ直線先端部は強く湾曲する。

♀の頭部前角は突出し、その先端は角張る。大あごの外縁は基部前方で強く突出し、その先端は角張る。

Sphaenognathus signatus Parry, 1874 (Fig. 5)

Sphaenognathus signatus Parry, 1874, *Trans. Ent. Soc. Lond.* 1874: 366.

Sphenognathus praestans Jakowleff, 1901, *Rev. Rus. d'Ent.* 1: 77–79.

模式産地：Venezuela.

体長：♂42.3mm (原記載) ~ 42.6mm.

♂は*S. hemiphanestus*に近似するが、本種の後脛節がほぼ直線なのに対し、*S. hemiphanestus*のそれは湾曲する。大あごは基部は幅広だが先端部に向かうにしたがって急激に細くなり、基部から前方約1/4まではきわめて緩やかに湾曲し、そこから先端まで強く湾曲する。*S. hemiphanestus*では全体に緩やかに湾曲する。

Krajcik (2001) は*S. hemiphanestus*を本種のsynonymとして扱っているが、後脛節の形態の違いから、本稿では当該種を独立種として扱った。

*S. praestans*は原記載とその写真から本種のsynonymと見なして差し支えないと判断した。

標本データ：Fig. 5: ♂, Ex. coll. Parry, Ex. coll. Van De Pool, *S. signatus* Parry det., *S. signatus* Parry, J. P. Lacroix det., 1971.

Sphaenognathus spinifer Boileau, 1904 (Figs. 25-28)

Sphaenognathus spinifer Boileau, 1904, *Le Naturaliste* 26: 284.

Sphaenognathus lachaumei Lacroix, 1983, *Bull. Soc. Sci. Nat.* (40): 5-7.

模式産地：Colombie.

体長：♂33.5~52.8mm, ♀35.0~36.4mm.

♂の頭部・前胸背板は黒褐色で、緑色味を帯びた金属光沢を有する。頭部と前胸背板は前者の前方中央と後者の中央を除いて灰白色のやや長い毛で密に被われ、後胸腹板は同色の長毛で密に被われる。頭部前角は強く斜め前方に突出し、先端は尖る。大あごの外縁は基部前方が弱く膨らみ、大型個体では先端近くまできわめて緩やかに湾曲し先端部はやや強まるが、小型個体では全体に湾曲はより強い。その内縁は鋸歯状となるが、そのもっとも前方の1歯が大きくなる。その上面の基部前方に中~大型個体では上向きの1小歯が発現する。

♀の頭部・前胸背板は褐色~黒褐色、上翅は褐色で、全体にやや光沢がある。頭部・前胸背板の周辺部は灰白色の短毛でやや疎らに被われ、後胸腹板は同色の長毛で密に被われる。頭部前角は突出し、先端はやや角張る。大あごの外縁は基部前方で強く突出し、その先端は丸まる。

*S. lachaumei*は36mmの♂で記載された種で、図示した小型個体によく一致する。当該種の大型個体は大あごの湾曲の度合いにある一定の差があるが、本種のsynonym扱いが一般的である。

標本データ：Fig. 25: ♂, Yari Caqueta, Colombia, 23. Oct. 1989; Fig. 26: ♂, Yari Caqueta, Colombia, 15. Oct.

1989; Fig. 27: ♂, Huila, Colombia, Mar. 1991; Fig. 28: ♀, Huila, Colombia, Mar. 1991.

Sphaenognathus taschenbergi Parry, 1874 (Figs. 38-39)

Sphaenognathus taschenbergi Parry, 1874, *Trans. Ent. Soc. Lond.* 1874: 368.

Sphaenognathus didieri Lacroix, 1972, *Bull. Anmls Soc. r. ent. Belg.* 108: 37-42.

模式産地：Venezuela.

体長：♂31.7mm (原記載) ~ 35.4mm, ♀31.5mm.

♂♀共に*S. prionoides*に近似する。体下面は灰白色の毛で覆われ、特に後胸腹板では長毛となるが、*S. prionoides*と比較すると明らかに疎らで、腿節と腹節で顕著。

♂の背面は全体に褐色でやや光沢があり、頭部の中央前方や前胸背板の周辺部は赤味を帯びた金属光沢を有する。頭部・前胸背板の周辺部は灰白色の長毛でやや疎らに被われる。頭部前角はやや斜め前方に突出し、先端はやや尖る。大あごの外縁は大型個体では基部前方で強く膨らみ、先端は角張る。その頂点から先端近くまではほぼ直線で、先端部はやや強く湾曲する。小型個体では、基部近くの突出は弱くなり、緩やかに湾曲する。また、内縁は鋸歯状となるが、大型個体ではそのもっとも前方の1歯がやや大きくなる。

♀の頭部・前胸背板は褐色~黒褐色、上翅は褐色で、全体にやや光沢がある。頭部・前胸背板の周辺部は灰白色の短毛で疎らに被われる。頭部前角は突出せず角張る。大あごの外縁は中央後方で強く膨らみ、弧を描く。

標本データ：Fig. 38: ♂, Ex. coll. V. Rosenberg, *S. taschenbergi* det. Weinreich, 1961; Fig. 39: ♀, Ex. coll. V. Rosenberg, *S. taschenbergi* det. Weinreich, 1961.

Sphaenognathus villosus Adam, 1986

Sphaenognathus villosus Adam, 1986, *Folia ent. hung.* 47: 16-17.

模式産地：Colombia, Nova-Granada.

体長：♂35.0mm (原記載).

Chalumeau et Brochier (1995) によると*S. pubescens*のsynonymの可能性が高い。

○引用・参考文献

- Benesh, B., 1985. *Coleopterorum Catalogus*. Lucanidea. Supplementa Addenda. W. D. Hincks Editio Secunda
Boileau, H., 1899. Diagnoses de Lucanides nouveaux. *Bull. Soc. ent. Fr.* 1899: 196.
———, 1911. Description de quelques especes nouvelles

- de Lucanides appartenant aux collections du British Museum. *Trans. Ent. Soc. Lond.* **1911**: 426-431, pls. 33-34.
- Burmeister, H., 1847. *Handbuch der Ent.* **5**: 334-342.
- De Lisle, M. O., 1975. Note sur la position systématique de quelques Coleoptera Lucanidae, avec la description de cinq espèces nouvelles. *Nouv. Revue Ent.* **5**: 261-265.
- , 1967. Note sur quelques Coleoptera Lucanidae nouveaux ou peu connus. *Revue suisse Zool.* **74**: 521-522.
- , 1970. Deuxième note sur quelques Coleoptera Lucanidae nouveaux ou peu connus. *Revue suisse Zool.* **77**: 91-93.
- , 1973. Troisième note sur quelques Coleoptera Lucanidae nouveaux ou peu connus. *Revue suisse Zool.* **80**: 785-786.
- Jakowleff, B. E., 1901. Description d'un nouveau espèce du genre *Sphenognathus* Buqu. *Rev. Rus. d'Ent.* **1**: 77-79.
- , 1901. Description d'un nouveau *Sphenognathus* de Bolivie. *Rev. Rus. d'Ent.* **1**: 176-178.
- Krajcik, M., 2001. *Cheklis of the Stag Beetles of the World.* 108 pp. Most, Czech Republic.
- , 2003. *Lucanidae of the World.* Catalogue-Part II. 197 pp. Plzen, Czech Republic.
- Kriesche, R., 1919. Neue Chiasognathinen. *Arch. Naturgesch.* (A) **83**: 94.
- , 1940. Vier neue Lucaniden. *Ent. Bl. Z.* **36**: 39.
- Lacroix, J. P., 1969. Notes sur les Chiasognathinae et Description d'espèces nouvelles. *Annls Soc. ent. Fr.* **5**: 585-593.
- , 1972. Descriptions de Coleopteres Lucanidae nouveaux ou peu connus. *Bull. Annls Soc. r. ent. Belg.* **108**: 33-50.
- , 1983. Descriptions de Coleoptera Lucanidae nouveaux ou peu connus. *Bull. Soc. Sci. Nat* (40): 5-8.
- , 1987. Description de *Sphaenognathus* (col. Lucanidae) nouveaux de la fauna sud-Americaine. *Bull. Soc. Sci. Nat* (56): 11-13, pl. 1.
- , 1988. Descriptions de Coleoptera Lucanidae nouveaux ou peu connus. *Bull. Soc. Sci. Nat* (59): 5, Fig.1.
- , 1990. Description de Coleoptera Lucanidae nouveaux ou peu connus. *Bull. Soc. Sci. Nat* (65): 11-12, pl. 1.

(〒135-0052 江東区潮見2-10-15-416)

月刊むし・ブックス 4

熱帯雨林のクワガタムシ

東南アジアの熱帯雨林で、クワガタムシの生態を追いつづけた著者の観察の集大成！

ベットショップの店頭を飾るクワガタムシ達のふるさとでの姿が、
美しい生態写真と楽しい文章で鮮やかに再現されています



- 鈴木知之 著
- A5判, 330頁 (カラー48頁)
- 定価 2940円 (税込み) [送料400円]

※郵送ご希望の方は、書名をお書き添えのうえ、合計金額の3340円をお送り下さい

本書の内容

熱帯雨林のクワガタムシ

不思議がいっぱいバブアキンイロクワガタ (バブア・ニューギニア) / ウロを占有するバブアヒラタクワガタ (バブア・ニューギニア) / ボサビ山麓のオノツキネブトクワガタ (バブア・ニューギニア) / ヤシの花に集まるクワガタムシ (マレー半島) / タケに集まるクワガタムシ (マレー半島) / 高地プラスタギ周辺のクワガタムシ (スマトラ) / ヒラタを求めて低地クタカネへ!! (スマトラ) / Mt. Trus Madi で小型種の材採集 (ボルネオ) / 世界最大のヒラタクワガタの島 (パラワン) / メタリフェルホソアカクワガタの配偶者防衛 (ヌラウエシ) / インドゾウの棲む谷 (南インド) / マライタ島のクワガタムシ (ソロモン) / ツメカクシクワガタ (バブア・ニューギニアとソロモン)

熱帯のクワガタムシの生息環境と生態

熱帯ってどこ? / 物理的な環境 / 生物的な環境 / 周期性とは / 分布 / 幼虫の生息環境と食性 / 成虫の食性 / 成虫の行動 / 今後の課題 / 熱帯雨林におけるクワガタムシの集まる植物のリスト